

# 障害者にも小児にも使える行動調整

昭和大学歯学部小児成育歯科学講座

教授 船津 敬弘 先生

障害者はどうして歯科診療が大変なのでしょう。知的障害のある方では「歯科保健と治療の意義が理解できない」という問題があります。肢体不自由の方では「歯科保健と治療の意義が理解はできるが姿勢や開口ができない」という問題があり、その両方の問題を抱えている障害者も多くいます。そして実際に困難性の大きな要因といえば歯科診療への協力状態になります。良好な協力状態であれば、一般の患者さんと変わりなく診療できます。しかし協力を得ることが難しい場合、まず考えていただきたいのは患者さんの知的な発達年齢になります。診療に際しては、つい暦齢で協力状態を判断しがちですが、障害者、特に知的能力障害のある患者ではその発達状態を探ることが重要です。知的発達の程度によってはどんなにトレーニングを重ねても、歯科診療への協力が得られないこともあるからです。当然ですが障害者の歯科診療では、安全性の担保が一般の方以上に大切になります。突発的な動きや不随意運動、意思疎通の困難性から、普段であれば全く危険を感じない診療行為である口腔内診察でさえ十分にできないこともあります。健常者には問題なく行うことのできる医療行為が提供できない場合もあるのです。そのため、不適應行動のある患者に対し必要な歯科診療を安全で確実に行うことができるように、心理学的手法や神経生理学的、物理的あるいは薬物などの様々な方法を用いて、行動調整、行動変容を行うことが殆どの患者に必要となります。そこで本研修会では、障害者を診るにあたって基本となる行動調整法を中心に話したいと思います。行動調整は障害者に限らず、小児にも応用が可能ですので、今回の内容が少しでも皆様の日常臨床のお役に立つことができれば幸いです。

昭和大学歯学部小児成育歯科学講座

教授 船津 敬弘 先生



## ご略歴

平成 8 年 3 月 昭和大学歯学部卒  
平成 12 年 3 月 昭和大学大学院修了（小児歯科）  
平成 24 年 4 月 昭和大学歯科病院障害者歯科診療科長・准教授  
平成 30 年 1 月 昭和大学歯学部スぺシャルニース 口腔医学講座障害者歯科学部門教授  
平成 31 年 4 月 昭和大学歯学部小児成育歯科学講座主任教授  
昭和大学歯科病院小児歯科診療科長（障害者歯科兼務）  
令和 4 年 4 月 昭和大学歯科病院副院長  
現在に至る

資格：日本障害者歯科学会専門医指導医，日本小児歯科学会専門医指導医

日本小児口腔外科学会指導医，日本口蓋裂学会認定師

その他：日本障害者歯科学会理事，日本小児歯科学会理事，日本小児口腔外科学会理事，日本口蓋裂学会評議員，東京都立心身障害者口腔保健センター運営委員